

Ⅱ-1 お母さんのための子育て井戸端会議

対象：乳幼児の保護者  
時間：80～90分程度

ねらい	同年齢の子どもを持つ母親や家庭教育支援者が集い、話をすることで、育児への不安や悩みを解消したり、情報を交換したり、学んだり、仲間づくりをしたりという親育ちの場になることをねらいとする。		
実施のポイント	○育児についての不安や悩みの解消、情報交換、学び、仲間づくりの場となったか。		
事前の準備	○時間に余裕を持った計画を立てる。 ○参加人数に合わせて支援者を確保する。 ○エピソードやフリートークのテーマは掲示できるようにしておく。 ○資料はポイントをまとめ、掲示できるようにしておく。 ○地域の子育て情報誌 ○名前シール（親用・子ども用） ○おもちゃ ○絵本		
時間	アクティビティの展開	展開のポイント	準備物
導入 15	ワークの主旨説明 1) 場を和らげ、話し合いがしやすい雰囲気作りのための、アイスブレイクを行う。 2) 4～6人のグループを作る。 3) グループ内で簡単な自己紹介をする。	○子どもが傍で遊んでいるので、アイスブレイクは動きの少ないものの方がよい。  ○各グループに司会者を設ける。  ○司会者は、家庭教育支援等に携わっている方が好ましい。	
話し合い 20	ワーク1 エピソードについて 1) 掲示したエピソードを読み上げる。 2) 3人の気持ちを考え、話し合う。 ワーク2 あなただったらどう対応しますか？ 1) どんな対応をするのか話し合う。	○エピソードの登場人物をお父さんではなく、おばあちゃんやおじいちゃんなどで考えてみるのも良いことを伝える。 ○参加者の子どもの年齢がエピソードと合っていない場合は発達段階に合わせて、適切な話題を提供できるとよい。 ○司会者はそれぞれの意見や考えを尊重する。 ☆1歳という発達段階を考えると、この時期にしつけをしようにも叱っても理解できず、かえってストレスになるだけであることを理解してもらう。	エピソード
話し合い 30～40	ワーク3 子育てフリートーク 1) テーマを確認する。 2) フリートークをする。	○フリートークの中で出される家庭や子どもの個人的な情報の扱いについては十分に注意することを予め確認しておく。 ○フリートークのテーマは参加者の状況に合わせて設定する。 ○話し合いには十分に時間をとる。 ○司会者はグループ内の参加者が話しやすい雰囲気を作り、活発な話し合いの場になるよう努める。 ○司会者は話すぎないように注意する。	フリートーク テーマを記入したカード
	〈テーマの例〉 ・起きる時間、寝る時間 ・食事（離乳食・おっぱい・ミルク等） ・おやつ ・歯みがき ・夜泣き ・あそび（場所・内容等） ・テレビ ・イライラすること ・イライラ解消法 ・パパのかかわり（助かっていること・困っていること） ・おじいちゃん、おばあちゃんのかかわり（助かっていること・困っていること） ・その他（子育てで困っていること・悩んでいること）等		
まとめ 15	ふりかえり 1) グループごとに出された内容を発表する。 2) 参加した感想を発表する。（数名）	○複数のグループで行った場合は全体で共有し、1グループのみで行った場合は、参加者に感想を発表してもらう。 ○時間に余裕があれば資料等の紹介を行う。 ○まとめとして伝える。 ・子育ては大事であるが、少しは息抜きすることも必要。 ・子育て情報誌等を上手に活用し、ひとりで悩まずに、相談しあえる仲間や機関を見つけて、子育て・親育ちを楽しみましょう。	子育て 情報誌

◆必要な支援者：子どもの面倒を見てくれるボランティア、グループの司会者をする家庭教育支援者、その他（保健師、助産師、栄養士、読み聞かせボランティアなど）

Ⅱ-2 子どもの思い・大人の役割について考えてみましょう

対象：乳幼児～小学校低学年の子を持つ保護者  
時間：90分程度

ねらい	それぞれの保護者の話しや考えを聞く中で、自分の子どもや他の子どもに対して何を大切に、どうかかわっていくことがその子のためになるかを考える。		
実施のポイント	○それぞれの立場にたって自分の意見を言えたか。 ○互いに互いの立場を理解し“自分なら”を考えて今後の行動に生かそうと考えられているか。		
事前の準備	○各人にエピソードのみの書かれた用紙を渡すようにする。 ○ワークの小問ごとに書き込みができるように空欄を設けた用紙を用意する。 (できれば2枚に分けてワーク1・2、ワーク4) ○付箋紙		
時間	アクティビティの展開	展開のポイント	準備物
導入 5 10 合計 15	ワークの主旨説明 1) 日ごろの子育てについて考えていることを伝え合う中でいろいろな考えのあることを知る。 アイスブレイク(グループ分けを含む) 1) 最後のアクティビティとして数集まりを行い、4～6名程度に分かれる。	○趣旨を伝え、日ごろの子育てについて考えていることを伝え合う中でいろいろな考えのあることを知り、打ち解けた雰囲気の中で時間が過ぎるよう語りかけていく。皆で考えていくことを伝える。 ○グー・パー、後出しじゃんけん、だるまさん、手たたきじゃんけんなど支援者と参加者、および参加者同士のコミュニケーションを図りながらアイスブレイクを行う。	ワークシート 筆記用具
エピソードを読む 5	エピソードを読む 1) 全員の顔が見られるように丸くなる。 2) 個々に目を通した後、その後皆で少しずつ声に出して読み上げていく。	○自分ならどうするかを考えながら読むように伝える。	エピソード用紙
書き込み 10 話し合い 10 合計 20	ワーク1 それぞれの気持ちを考えてみましょう。 1) それぞれについて書き込む。 2) グループ内で話し合う。  ワーク2 それぞれの気持ちを考えてみましょう。	○丸くなり全員の顔を見ながら行う。 ○状況や雰囲気に応じて、司会を決め(人数が少ないときはリーダーが司会になる)ワーク1～2について話し合ってもらおう。 ○なぜそう思うのかを理由をつけて話してもらうようにする。(それぞれの気持ちについては深く触れていくのではなくそれぞれいろいろな思いをもっていることが確認できる程度でよい。まとめる必要はないが出た意見を確認しておく。)	
書き込み 10 話し合い 10 合計 20	ワーク2 こんな時あなたはどうしますか？	〃	
書き込み 5 話し合い 15 発表 5～10 合計 25～30	ワーク3 大人の役割として、どんなことがあるでしょうか。ワークを振り返って話し合ってみましょう。	○ワーク2、3をもとに、大人の役割にはどんなものがあるのか考え、付箋紙に記入する。 ○付箋をもとにグループ内で発表し話し合う。 ○グループごとに出た意見を全体で共有する。	付箋紙
話し合い 20	ふりかえり	○全体で出された意見に対して、もう一度グループで自由に話し合う。 ○正解はないことを伝えていくが自分の子以外でも「栃木の子」として皆で育てあいましょうを確認して終わる。	

Ⅱ-3 子どものいいところを伸ばそう

対象：乳幼児～小学校低学年の子を持つ保護者  
時間：90分程度

ねらい	乳幼児期の子どもの特性を理解するとともに、子どもの成長や良いところを見つめ、子どもとの接し方を考える。		
実施のポイント	○エピソードをもとに、自分自身の子育てについて考える機会がもてたか。 ○子どもを多角的に捉える機会となったか。		
事前の準備	○ワークシートはワーク毎に分割して準備できるとよい。 ○筆記用具		
時間	アクティビティの展開	展開のポイント	準備物
導入 10	ワークの主旨説明 1) 学習のねらいを確認する。  アイスブレイク 1) 場を和らげ、打ち解けた雰囲気を出す。 2) ゲームをとおり、4～6人のグループ分けを行う。	○乳幼児期の子どもの特性を理解し、子どもの成長や良いところを確認し、どのように子どもと接したらよいかを考える機会であることを確認する。 ○ワークの中で出される家庭や子どもの個人的な情報の扱いについて注意を喚起する。	
書き込み 5 話し合い 10 合計 15	ワーク1 1) エピソードを読み、まゆみちゃんの気持ちと、自分が「紀子さん」だったらどんな言葉をかけるか考えてシートに書き込む。 2) 個人で書き込んだものをもとにグループで話し合う。	○エピソードに出てくる子どもの気持ちや乳幼児期の特性を考えながら各自エピソードの例を読む。  ○共感する点などいろいろな人の意見を聞き、自分自身の子育てについて考える。	ワークシート 筆記用具
書き込み 5 話し合い 10 合計 15	ワーク2 まゆみちゃんとはどんな子なのか、まゆみちゃんの良いところを見つける。 1) 考えをシートに書き込む。 2) 書き込んだことについてグループで話し合う。	○できるだけたくさん書き出してもらおう声をかける。 ○良くないと思われることから視点を変えて、良いことからして捉え直してみる。 ○同じ行動も見方によってかわることを確認する。 ○時間に余裕があれば、全体で共有する。	ワークシート
書き込み 10 話し合い 10 合計 20	ワーク3 1) 同様の経験、子どもに任せてうまくいったこと、失敗したことについてシートに書き込む。 2) 書き込みをもとにグループで話し合う。	○失敗してしまった例ばかり出たり、発達段階から考えて、あまり高い水準を子どもに期待しているような場合には、「どうしても次の段階に進むとできるようなっていることを忘れがちなので、できていることを思い出し、それをまず認めることが大事だ」ということを伝える。	ワークシート
書き込み 10 話し合い 15 合計 25	ワーク4 1) 自分の子どもの良いところ、これから挑戦させたいことについて書き込む。 2) 1) で書き込んだことについてどんな応援をしようと思うか考え、書き込む。 3) 書き込んだ内容についてグループで話し合う。	○子どもを様々な視点からみることで、良いところをたくさん見つけるよう声をかける。 ○具体的な応援が思い浮かばない場合はグループで一緒に考えてみても良いことを伝える。 ○時間に余裕があれば、全体で共有する。	ワークシート
まとめ 5～10	ふりかえり 1) 学習をふりかえり、これからの子どもへの接し方を各自整える。	○まとめ ①見方によって長所にも短所にも見えるのが個性であること。 ②発達段階によっては特有の行動がみられる時期があること。 ③発達段階や個人によって伝え方、表現方法を工夫すること。 ④場面や係わる相手によって別人に思えるほど子どもはいろいろな面を持っていること等を伝え、親が良いところを見つけて自信をつけさせ良い面をさらに伸ばす手助けをすることが大事であることを伝えまとめとする。	